

日本地衣学会

No.55

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告	193
	第15回青空地衣教室（神奈川県大山）の記録／木下靖浩・安斉唯夫	193
	第15回青空地衣教室で観察された地衣類／木下靖浩・安斉唯夫・原田浩	194
	地衣類観察会に参加して／佐藤大樹	194
	会員通信	195
	台湾地衣類調査行2005（その2）／原田浩	195

会務報告 Report of the JSL Activities

第15回青空地衣教室（神奈川県大山）の記録

去る5月29日に2005年度関東地区での1回目の観察会として第15回青空地衣教室を開催することができたので報告する。

* * *

開催日：2005年5月28日（土）

開催場所：神奈川県伊勢原市：大山 阿夫利神社（あぶりじんじや）

内容：低地～山地の地衣類を観察する

参加者：19名

* * *

大山ケーブル駅追分駅で集合し、ケーブルで阿夫利神社下社に登り、境内を中心に地衣類を観察した。

大山では昨年にも観察会を実施したが、地衣類を観察しながらケーブル追分駅から下社への参道を登ったため、最終目的地に考えていた阿夫利神社下社にたどり着けなかった。下社は大山の中腹の南東面に位置し日当たりのよい場所や石垣があり、

昨年観察した参道とは異なった種類が生育していることから、昨年に続いて大山で開催することとした。

境内のカエデなどの樹幹では、ウメノキゴケ、キウメノキゴケ、マツゲゴケなどの葉状地衣、ヘリトリモジコ



図1. 観察会の光景。

ケ、オオカノコゴケなどの痂状地衣が認められた。石垣には、アカハラムカデゴケ、コウヤウメノキゴケ、コナカワラゴケ、コバナアオキノリ、センシゴケ、トゲトコブシゴケ、ハクテングケ、ハガタウラミゴケ、ヘラガタカフトゴケ、ヤマゲシゲシゴケなど多様な葉状地衣が生育していた。他にもサルオガセ属やヤマトキゴケ、ヤリノホゴケのような樹状地衣など多種多様な地衣類を観察することができた。

今回の観察会には秋田や熊本という遠方からの参加も得て盛会であった。幹事として講師の原田さん、参加して下さった方々に感謝している。一方、昨年と全く同じ時期に設定したために2回とも参加していただけなかった方がいらっしゃることを申し訳なく、今後の開催に反映させたいと考えている。

(木下靖浩・安斉唯夫：地域活性委員会関東)

第15回青空地衣教室で観察された地衣類

樹状

<i>Cladonia coniocraea</i>	ヤリノホゴケ
<i>Cladonia humilis</i>	ヒメジョウゴゴケ
<i>Cladonia ramulosa</i>	ヒメレンゲゴケ
<i>Stereocaulon japonicum</i>	ヤマトキゴケ
<i>Usnea</i> sp.	サルオガセ属の一種

葉状

<i>Candelaria concolor</i>	ロウソクゴケ
<i>Cetrelia braunsiana</i>	トゲトコブシゴケ
<i>Coccocarpia palmicola</i>	コナカワラゴケ
<i>Flavoparmelia caperata</i>	キウメノキゴケ
<i>Heterodermia pseudospeciosa</i>	ヤマゲシゲシゴケ
<i>Hypotrachyna koyaensis</i>	コウヤウメノキゴケ
<i>Hypotrachyna nodakensis</i>	ノダケウメノキゴケ
<i>Hypotrachyna osseoalba</i>	ゴンゲンゴケ
<i>Hypotrachyna pseudosinuosa</i>	タカハシウメノキゴケ
<i>Leptogium moluccanum</i> var. <i>myriophyllum</i>	コバナアオキノリ
<i>Lobaria spathulata</i>	ヘラガタカフトゴケ
<i>Menegazzia terebrata</i>	センシゴケ
<i>Myelochroa irrugans</i>	ウチキウメノキゴケ
<i>Myelochroa leucotyliza</i>	ヒカゲウチキウメノキゴケ
<i>Nephroma tropicum</i>	ハガタウラミゴケ
<i>Paeophyscia endococcinodes</i>	アカハラムカデゴケ
<i>Parmelinopsis minarum</i>	トゲウメノキゴケ
<i>Parmelinopsis spumosa</i>	コナヒメウメノキゴケ
<i>Parmotrema tinctorum</i>	ウメノキゴケ
<i>Peltigera degenii</i>	ウスツメゴケ
<i>Punctelia borrieri</i>	ハクテングケ
<i>Punctelia rudecta</i>	トゲハクテングケ

<i>Rimelia clavulifera</i>	マツゲゴケ
<i>Rimelia hawaiiensis</i>	クスレマツゲゴケ

痂状

<i>Caloplaca flavorubescens</i>	ダイダイゴケ
<i>Graphis</i> spp.	モジゴケ属(複数種)
<i>Lecanora imshaugii</i>	チャシブゴケ属の一種 (レカノラ イムシャウギー)
<i>Lecanora subimmarginata</i>	チャシブゴケ属の一種 (レカノラ スフィンメルゲンズ)
<i>Lecanora mikuraensis</i>	チャシブゴケ属の一種 (レカノラ ミクラエンシス)
<i>Lecanora megalocheila</i>	チャシブゴケ属の一種 (レカノラ メガロケイラ)
<i>Leiorreuma exaltatum</i>	ヘリトリモジゴケ
<i>Ochrolechia parellula</i>	イワニクイボゴケ
<i>Ochrolechia trochophora</i>	クサヒラゴケ
<i>Pertusaria multipuncta</i> (?)	オオカノコゴケ(?)
<i>Pertusaria</i> spp.	トリハダゴケ属(複数種)
<i>Porina</i> sp.	マルゴケ属の一種
<i>Porpidia albocaerulescens</i>	ヘリトリゴケ
Thelotremaaceae sp.	チブサゴケ科の一種
<i>Verrucaria</i> sp.	アナイボゴケ属の一種

(木下靖浩・安斉唯夫・山本好和・原田 浩)

地衣類観察会に参加して

観察会に参加する最大の利点は、直接専門家に指導を仰げることである。すなわち、専門家の長期間にわたる知識や経験(こぼれ話もふくめて)を一日中体験できることである。

原田先生(千葉県立中央博物館)は大変的確に、同定のための着眼点、生態的特徴、最低限覚えるべき事柄等、実物を目の前にして典型的な状態を示しながら説明をされた。私も目の前の地衣を同定しようと、粉芽、裂芽、パスチュール等、ルーペでじっくりと各地衣類の表面をのぞき込んだ。一つの葉状体上でもパスチュールの大きさはかなり違いがありそうだ。また、日陰になると地衣体は緑がかかるというテキスト(校庭のコケ)の説明の通りに、観察地内で緑がかったロウソクゴケを見つけることもできた。また、ウチキウメノキゴケは、内部の黄色みの度合いがかなりばらつくが、子器を剥がして現れた部分の黄色みは強い傾向があるという吉村先生の経験的知識を、原田先生を通して知ることもできた。まさにその通りのことを大山のウチキウメノキゴケで体験できた。教科書では得られない経験であった。今回観察した30種余の地衣類は一度には覚えられないが、何とか同定能力を付けてゆきたいと思う。

観察とは観て察する行為である。観るは「みわたしてみくらべること」（学研漢和大辞典 1980 年）であり、その結果何かを察することである。今回は、地衣類を「観て察する」ための体験ができた有意義な一日であった。

最後になりましたが、原田先生、お世話になった木下さん、安斉さんに御礼を申し上げます（地衣類観察会 2005 年 5 月 28 日 神奈川県 大山）。

（佐藤大樹：森林総合研究所九州支所）

会員通信 From Members

台湾地衣類調査行 2005（その 2）

今回の旅行の目的は、台湾の淡水生アナイボゴケ科の調査ではあったが、都合によりまず山の上での調査となり、巨木の森を訪れたことは前回述べた。さて、今回はその続き。

巨木の森から、地衣の笹原へ

台湾鉄杉 *Tsuga chinensis* var. *formosana* の巨木の森を登り、標高 3000m 程で台湾雲杉 *Abies morrisonicola* の順林を過ぎると笹が現れ、間もなく山小屋に着いた。更に 30 分ほど進むと山頂なのだそう。この先、森林は無く、笹原の中の道が続くのだという。格別期待できるものも無さそうだし、昼食後は小屋の近くでしばらく調査してから下山することに決めた。

笹原をバックにした小屋の前での記念撮影（図 1）からも、霧がかかり始めたのが分かる。こういう場所には、あれが有るに違いないと、探してみると、果たしてそこにあった。笹に着生する地衣類だ。16 年前に台湾中北部の高山、南湖大山に登っ



[右上] 図 1. 山小屋前で記念撮影。

[右] 図 2. 地衣類が着生する笹 *Yushania niitakayamensis*

た時に初めて見た光景と同じだった(図2)。ナヨナヨサルオガセ *Usnea flexilis*, ハリガネキノリ属 *Bryoria*, ウスバトコブシゴケ属 *Platismatia* などなど。前回よりも種数は多そうである。

基物となっているのは頼さんによると *Yushania niitakayamensis*, 帰ってから調べてみたら玉山箭竹という台湾名であった。種小名は「新高山」から、属名は「玉山」から取られているが、どちらも同じ山の日本語名、台湾名である。日本の笹では、このようなことはまず見られない。これは *Yushania* が短い枝をたくさん出すので地衣類がくっつき易く、また葉が小さくまばらで陰になりにくいいため日照を必要とする大型地衣の生育には良いからだろうか? *Yushania niitakayamensis* の学名といい、台湾の高山を象徴す



図3. 試料を乾燥中の部屋。

る一コマと言えよう。

広げて乾かす

大型地衣を楽しんだ一日はあっという間に過ぎた。あまりにも楽しくて、ついつい調子に乗って200点を超す標本を採集してしまったのは、何年か振りのことだった。しかし、これからが問題だった。

さて、調査旅行中に地衣類試料の処理の仕方には大きく二通りがある。一つは、直ぐに押し葉などの標本化作業をする方法、もう一つは、持ち帰ってから標本化作業をする方法である。良い標本を作るには、じっくりと時間をかけねばならないので、そのような時間が得にくい調査旅行中には私は後者の方法を採用している。ただし、なるべく早く乾燥させることが肝要である。

我々は玉山国家公园管理所梅山分処というところに泊めていただいていた。部屋は一人が寝るには十分すぎるほどのスペースがあるのだが、さてそこは、試料を乾かすためのスペースでもあった。前日の数十点と本日の200余点とを、採集用の紙袋の口を広げて、床に並べると、部屋は半分に狭くなり、布団を半分に折ったまま寝る羽目になった。といっても、寝心地は十分であったが、・・・また、除湿機が備えられていたことは、標本乾燥にとって幸いであった。

(原田浩：千葉県立中央博物館)

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 55号

発行日：2005年 6月 25日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内